

ハーブソン Hokkaido 2019

結果・速報版



北海道爬虫両棲類研究会

はじめに

「ハーブソン Hokkaido 2019」は、2019年4月13日～8月18日までの期間に、北海道爬虫両棲類研究会主催で行われました。本年も事故がなく無事に開催できて良かったです。ご参加・ご協力下さった方々に御礼申し上げます。また、様々な地域での講演、ハーブソン説明会の実施にご協力いただいた施設の皆様にも大変感謝しております。本年は予定より、速報の発行が遅れて申し訳ありませんでした。

今回の速報は、簡易的な結果報告と競技部分の受賞の発表となっております。詳細な報告、及び結果等については、2018年～2020年のデータの蓄積の上取りまとめ、報告書を作製する予定であります。

北海道爬虫両棲類研究会
副会長 徳田龍弘

調査の結果について

(さっぽろ生き物さがし【賞授には関わりません】のデータはまだハーブソンへの反映がまだ出来ていないので未集計です)

参加チーム数：28 チーム (昨年比+4)

ばいかだ / チームやまはな / 自然ウオッチングセンター / とかちへいや生物部 / 滝野の森
アマアマアママガエル / チーム MOMO / チームばにら / きたひろ市民大学自然観察 G
EnV+北海道希少生物調査会 / とかち蛙探偵団 / ざりがに探偵団ビッキーズ / あげは / ぽんじろう / SIRO
柊羽隊長! / チーム西堀 / HHS 観察会 / くらまつない / あばしり / かんガエル / ぽんた〜ず / kaorino2
チーム北博 / HHS 情報収集 / 相沢オ永 / いし / hikahkr / さっぽろ生き物さがし 2019

参加者数：のべ 105 名 (昨年比+11) ★「さっぽろ生き物さがし 2019」は各参加チーム代表者数を計上予定

調査されたエリア：101 エリア (昨年比-24)

期間内調査で確認された種：18 種 (昨年比+1)

ヒガシニホントカゲ / ニホンカナヘビ / ジムグリ / アオダイショウ / シマヘビ / シロマダラ / ニホンマムシ
クサガメ / ミシシippアカミミガメ / エゾサンショウウオ / ニホンアマガエル / エゾアカガエル
アズマヒキガエル / ウシガエル / ツチガエル / トウキョウダルマガエル / トノサマガエル / アカハライモリ

頂いた生息データ数：

正式記録(確認データあり)：326(+8)，参考記録(確認データなし)：19(-59)
その他の期間記録(確認データあり)：22(-39)，特殊記録(情報提供記録)：7(+2)
番外(史跡名勝)データ：0(-2)

各詳細データについて

速報データは以上です。細かな種ごとの分布や検討については、2020年度の発行を予定している「ハーブソン Hokkaido 2018-2020 結果報告書」(北海道爬虫両棲類研究報告別冊)にて行う予定です。

受賞等について

「ハーpson Hokkaido 2019」では、一生懸命調査をして下さった方々に4賞を検討いたしました。各受賞チームには賞状及び粗品を大会時に贈呈する予定です。大会に来られない受賞者には年度末までに発送いたします。

★最優秀賞

ハーpson期間中に最も多くの種を、正式記録として報告して下さったチームです

受賞者：アマアマアマアママガエル(12種)

2位：チームばにら(11種) 3位：滝野の森(9種)

★ばいかだ賞(最多エリア調査賞)

ハーpson期間中に最も多くのエリアを、調査して下さったチームです。

受賞者：とかち蛙探偵団(16エリア) 次点：自然ウォッチングセンター(11エリア)

★Booby3賞

種数が最下位から3番目の方、1チームに授与。同種確認チームが複数おりましたので、抽選の結果、以下のチームが受賞しました。

受賞者：SIRO(2種)

★中島宏章賞(写真賞)

調査写真から、特に写真賞に応募のあったものを、野生動物写真家の中島宏章氏(<http://hirofoto.com/>)に選定していただきました。

これらの写真(応募のあった写真)については、2019年1月末に行われる、北海道爬虫両棲類研究会大会にて飾る予定です(2L版)

受賞者：チームばにら(写真題：幹の上から)

次点：くろまつない(写真題：無題)



幹の上から



無題

おわりに

この発行物は速報ですので、簡易発表です。細かな種の分布確認や考察、参加者の感想やハーpsonの今後についてなどを細かく記録したものは、2020年度発行予定の「北海道爬虫両棲類研究報告」別冊版「ハーpson Hokkaido2018-2020 結果報告書」にて報告する予定です。

ハーpson Hokkaido 2019は、参加者獲得のための講演は、徳田が行う講演先で少しずつ伝えるに留まりましたが、データは昨年と変わらないくらいの規模で頂くことができました。ハーpsonも少しずつ浸透してきているのかなと、実感してきております。各地域でご参加、ご協力下さった皆様に感謝いたします。本年度は補助金制度を受けず、活動しましたが、来年開催の「ハーpson Hokkaido2020」は報告書作成があるため、補助金の申請を検討しています。

結果について気になるところでは、アズマヒキガエル(国内外来種)の札幌市南区の個体群の数が思いのほか多かったこと、網走でアカハライモリ(国内外来種)が再び確認されたことです。これらの由来は、荷物等からの混入や、放逐が原因と考えられます。これ以上、北海道の生態系に影響を与える可能性のある外来生物を広げないよう、安易な放逐等が行われないよう、啓発活動等を継続しなくてはならないと思います。またそれらの生き物について、なるべく誤りがなく、誇張されない表現で正確な情報を伝えていく必要性も感じています。

参加者の方々の動きも、1エリアを集中的に調査するグループ、1~2種類を広範囲で多エリアで調査するグループなど、多様化してきており、調査として好ましい動きになってきていると思います。

今年も「さっぽろ生き物さがし」の事務局と連携し、ハーpsonにも一緒に報告していただく試みや、スマホアプリの「いきものログ」を用いて、一部参加者の方にご報告いただく試みをしました。「いきものログ」での報告は、簡便な面もあるのですが、報告いただいた方(twitter等のSNSも含め)の一部にその後、事務局から連絡が取れず、報告書等の送付をどうしようかと悩んでおります。来年はこのあたりの問題を検討しつつ、「いきものログ」の来年度の使用について検討したいと思います

また、ハーpsonの事務が現在のところ1~2人で行っているため、作業者の私用にて入力が入る等の問題を本年は経験しました。規模が大きくなると、ここも解決しなくてはならない問題だと思っておりますので、引き続き検討し、場合によってはお手伝いをお願いすることもあるかもしれません。

ハーpsonはデータを蓄積することに意味があります。来年度もデータを蓄積していく予定で進め「ハーpson Hokkaido 2020」を実施する予定です。速報の発行や、賞授も例年通り行います。そして2018年~2020年の結果の取りまとめた報告書を作成したいと考えております。来年の開催の時期が近づきましたら、お知らせいたしますのでぜひご参加下さい。

今後ともハーpson Hokkaido 及び、北海道爬虫両棲類研究会をよろしく願いいたします。

執筆：徳田龍弘(北海道爬虫両棲類研究会・副会長)

〒005-0021

北海道札幌市南区真駒内本町7-4-27 北海道爬虫両棲類研究会事務局内

副会長 徳田龍弘